

**寮生のための
大地震対応マニュアル**



独立行政法人国立高等専門学校機構

目 次

- 1. 在寮時に地震に遭遇した場合 1
 - (1) 日頃からの地震に対する心構え 1
 - (2) 行動の流れ 1
 - (3) 行動の指針 2

緊 急 時 連 絡 メ モ

氏 名 _____ 学籍番号 _____

携帯メールアドレス _____

携 帯 電 話 番 号 _____

住 所 (自宅) _____

電話番号 (自宅) _____

<自宅以外の緊急連絡先>

氏 名 _____ (続柄: _____)

住 所 _____

電話番号 _____

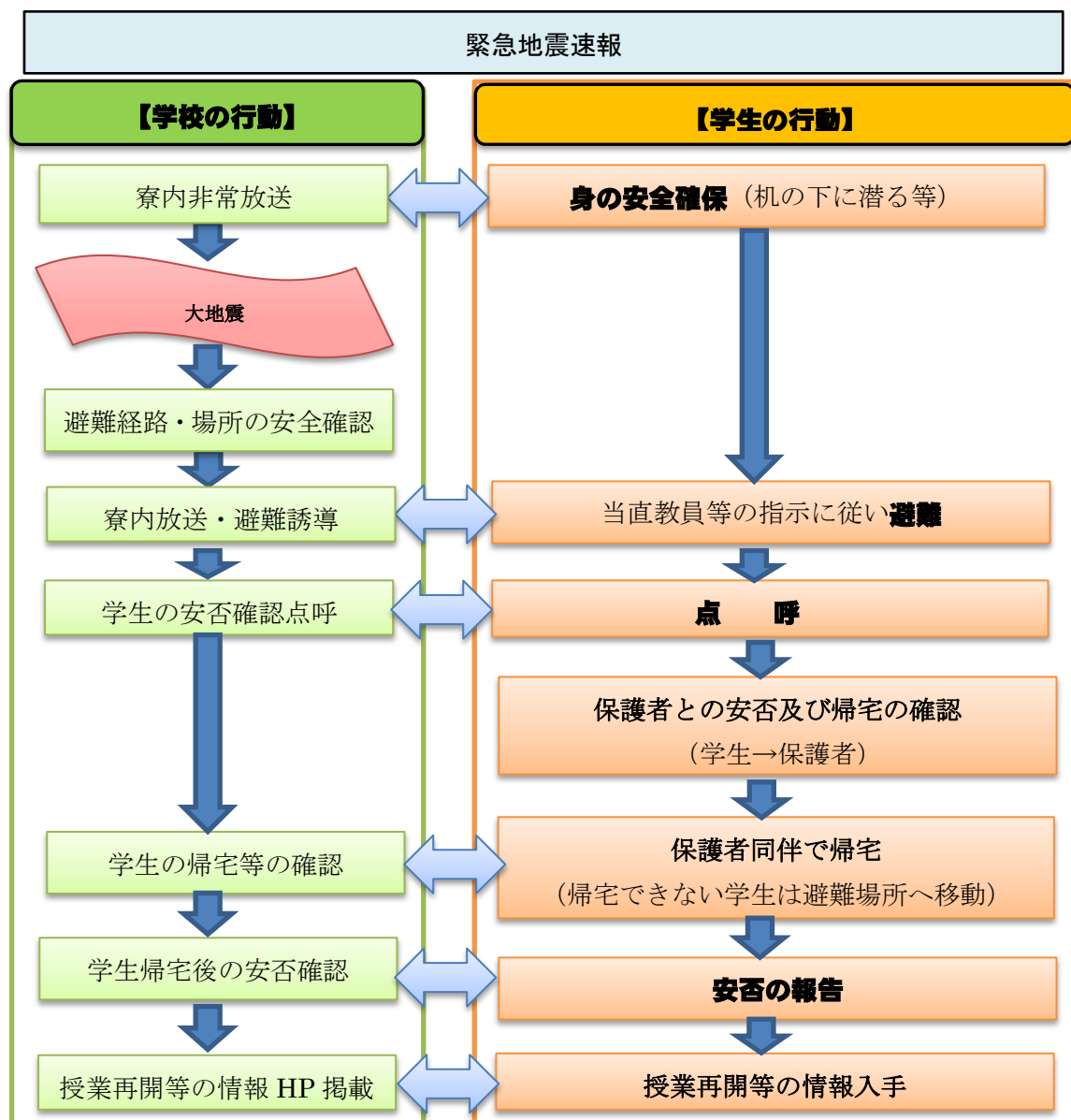
その他

1. 在寮時に地震に遭遇した場合

(1) 日頃からの地震に対する心構え

- 家族との連絡方法等を確認しておく。(災害用伝言サービスの利用方法や待ち合わせ場所等)
- 学校の緊急連絡網や安否確認システムに携帯電話番号や携帯メールアドレス等を登録(更新)する。
- 避難場所と避難経路を確認しておく。
- 非常時の連絡用のため、携帯電話等は十分に充電しておく。

(2) 行動の流れ(基本的には、このフローチャートに従って行動する。)



※当直教員等が一時的に不在の場合は、各自が身の安全を確認しながら臨機に行動すること。

(3) 行動指針

【緊急地震速報受信時】—寮内緊急放送がある—

- 周囲の状況に応じて、あわてず、身の安全を確保する。

【地震収束後】

- 寮内放送・当直教員・指導寮生等の指示に従う。(建物等に被害がない場合は、平常の寮生活に戻る。)
- 避難指示が出た場合は、当直教員・指導寮生等の指示に従い、寮内放送などで指示された避難場所へ、避難経路の安全を確認しながら避難し、寮毎に集合して指導寮生等の点呼を受ける。
- 寮外にいた場合、速やかに寮に戻る。(ただし、帰寮に時間を要する場合は最寄りの安全な避難場所に避難し、状況が落ち着き次第、家族と連絡をとり、互いの安否と帰宅方法を確認し、寮へ連絡する。)
- 平常の寮生活や学校生活が継続できない状況になった場合に、寮内待機を続けるか、可能なかぎり帰宅(帰省)するかについて、寮担当教員や担任の指示を受ける。

【家族との連絡】

- 家族と連絡をとり、互いの安否を確認し、保護者同伴で帰宅できるかを確認する。

【帰宅(帰省)と校内待機】

- 平常の寮生活が継続できない状況であっても、保護者同伴で安全に帰宅(帰省)できない場合は、寮内の指定された場所で待機する。
- 保護者同伴で帰宅(帰省)できる場合は、寮担当教員や担任に報告し、帰宅(帰省)する。
- 安全な帰宅(帰省)方法があり、保護者の了解が得られた場合は、寮担当教員や担任に報告し、自分で帰宅(帰省)することもできる。

【事態沈静化後】

- 学校からの安否確認や被害状況調査に協力する。
- 学校からの情報を常に確認する。(安否確認システム、学校HPなど)